

8月26日(水)アパー村での生活と寺院見学(ワット・プラケーオ)

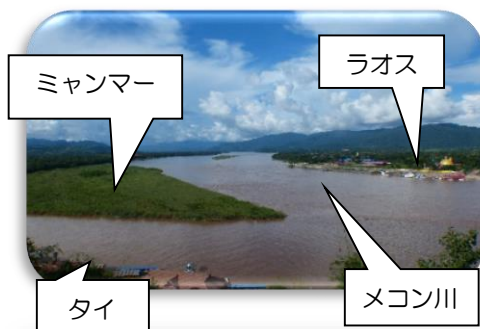


ホームステイをした家の一室



アパー村での宿泊ではすべてが初めてのことばかりでした。日本での生活と比べると不便を感じこともありましたが、しかしアパー村の人々は精神的には大変豊かな生活をおくられていることも知ることができました。地域・村全体で信頼関係を築いていて、お互いを大切にしています。アカ族の伝統文化を大切に継承しています。ホームステイをした家のお母さんは、言葉は通じなくても私たちのことを理解しようと一生懸命に接してくださいました。料理をたくさん作りもてなしてくださいました。どの料理も本当においしかったです。アカ族は、数ある山岳少数民族の中でも明るく社交的な部族とのことですが、物質的な豊かさや精神的な豊かさについて考える良い機会となりました。この村で過ごすことができたことを感謝したいと思います。

8月27日(木)帰国前日:ゴールドトライアングルとオピウム(アヘン)博物館・児童養護施設訪問



今日は国境の地へ赴きました。まずはゴールドトライアングルへ。ここはタイ・ミャンマー・ラオスの3カ国が川を隔てて接している場所です。川の向こうは違う国という光景は生徒にとって新鮮な驚きでした。しかしこの地を有名にしたのは、アヘン栽培という暗い歴史です。この近くに立派な王立オピウム博物館があり、アヘンの歴史や脅威などを学ぶことができました。

次に国境近くに建てられた児童養護施設「バーン・ナナ(タイ語で多様性の家という意味)」を訪問しました。ここは社会から見捨てられた子供たちの支援を行っています。国境付近には多くのストリートチルドレンがいます。ストリートチルドレンの大半はミャンマーからきた子どもたちです。彼らはゴミの山から売れるものを拾い出し、それを売って生活をしています。学校へは行かず、常に人身売買や麻薬の脅威にさらされています。この施設はそのような子供を集めて生活の場を与えています。写真の左端の方が私財を投げ打ってこの施設を設立・運営をしていらっしゃるタイ人のジアンラム先生です。

ここにはガス、水道はきていません。電気は自家発電です。スタッフと子供たちが力を合わせ米や野菜を育て、池では魚を養殖して自給自足の生活をしています。無農薬の米を売って現金を得ています。また、ストリートチルドレンや山岳少数民族の中には国籍がない方が沢山います。国籍がないと進学や就職などあらゆる面で多くの制約を受けます。「バーン・ナナ」では職業訓練や就業支援も行っています。現在この施設の方やミラー財団や沢山の NGO の方々がこの国籍問題に取り組んでいます。

【生徒の感想から】今回のボランティアワークでは本当に多くの学びがあったと思います。以前から講義を受け学んだものを実際に肌で感じ、自分のものとした気がします。また教育を受けられる大切さを改めて感じさせられました。